「イエスの第５のしるし」　　ヨハネ６：15～21

1. 「しるし」の背景（6：15～18）

「イエスは、一人山に退かれた。」のは？

① 群集や弟子に誤ったメシア観をこれ以上持たせないため

ヨハネ 6:15 そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやり連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。

② 祈りのため

マタイ 14:23　群集を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた。夕方になったが、まだそこに、ひとりでおられた。

③ 弟子たちを訓練するため

ヨハネ 6:16･17 夕方になって、弟子たちは湖畔に降りて行った。そして、船に乗り込み、カペナウムのほうへ湖を渡っていた。
マタイ 14:22 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸へ行かせ、その間に群集を帰してしまわれた。
マルコ 6:47･48 夕方になったころ、舟は湖の真ん中に出ており、イエスだけが陸地におられた。イエスは、弟子たちが、向かい風のために漕ぎあぐねているのをご覧になり、夜中の三時ごろ、湖の上を歩いて、彼らに近づいて行かれたが、そのままそばを通り過ぎようとのおつもりであった。

2. 「しるし」の訓練（6：19～21）

① イエスの顕現（神が人に会われ、ご自身の存在や御心を示されること）

6:19～21 こうして、四、五キロメートルほどこぎ出したころ、彼らは、イエスが湖の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、恐れた。しかし、イエスは彼らに言われた。
「わたしだ。恐れることはない。」それで彼らは、イエスを喜んで舟に迎えた。
舟はほどなく目的の地に着いた。

② 弟子たちとペテロの反応

マタイ 14：33 すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」イエスは「来なさい」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ、助けてください」と言った。そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」そして、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。そこで、舟の中にいた者たちは、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です」と言った。

マルコ 6：51・52 そして舟に乗り込まれると、風がやんだ。彼らの心中の驚きは非常なものであった。というのは、彼らはまだパンのことから悟るところがなく、その心は堅く閉じていたからである。

ヨハネ 6：63 すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行けましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。

3. ヨハネのメッセージ

神様は信じる者が、神様を個人的に知って信頼し、愛し礼拝する者として成長するよう訓練される。